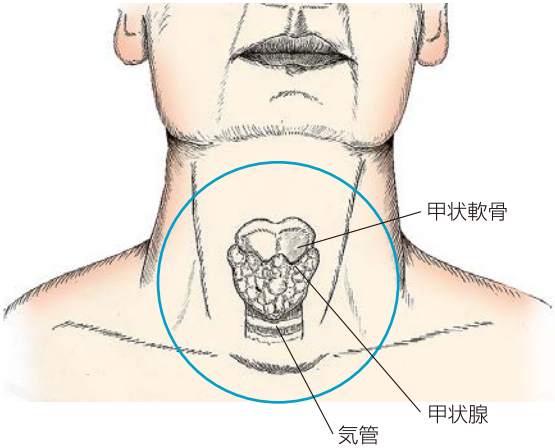
1 甲状腺はどこにあるの？

甲状腺はのど仏の下に蝶が羽を広げたような形をしています。のど仏とは甲状軟骨という大きな軟骨のうち前方に飛び出したところを指し、甲状腺はこの甲状軟骨を目印に探していきます。患者さんの中には、この甲状軟骨を甲状腺のはれと間違って受診される方がいますが、甲状腺はその下にあります。正常の甲状腺は、重さ15～20グラムくらいの小さなものです。また、軟らかいので通常は外から触れてもなかなかわかりません。甲状腺の後ろには副甲状腺という血液中のカルシウムを調節する臓器が4個あります。大きさは米粒ほどで、これも普通は触ることはできません。

［甲状腺の位置］



2 甲状腺の働きは?

甲状腺は体の成長や新陳代謝を調節するのに必要な甲状腺ホルモンが作られています。と言うと、「ホルモンって何?、新陳代謝って?」となりますね。ホルモンとはからだの中で作り出される、微量で大切な働きをするものの総称です。現在まで50種類以上のホルモンが見つかっていますが、甲状腺ホルモンはそのなかでも最も重要なものの一つです。甲状腺から出されたホルモンは、血液によって全身に運ばれて働きます。

甲状腺ホルモンの主な作用は最初に書いたように新陳代謝を活発にすること、すなわち食物に含まれるいろいろな栄養素を体内で上手に利用されるように働きます。この甲状腺ホルモンが不足すると、新陳代謝は低下するために、いろんな場所の働きが鈍くなってきます。たとえば、脈が遅くなったり、便秘になったり、頭の回転が悪くなったり、子供の場合は身長が伸びにくくなります。逆に多すぎると代謝は活発になりすぎ、よく食べるのにやせる、汗をかきやすい、脈が速いなどの状態となり非常に疲れやすくなります。

3 甲状腺の病気にはどんなものがある？

大きく分けて下の3つに分類できます。

1. 甲状腺の働きが問題になる病気

代表的疾患：バセドウ病、橋本病

2. こぶ（腫瘍）が出来て、それが悪性かどうか問題になる病気

代表的疾患：腺腫（せんしゅ）、
腺腫様甲状腺腫（せんしゅようこうじょうせんしゅ）、がん

3. その他の病気

4 代表的な甲状腺の病気について

甲状腺の働きが問題になる病気

その1 バセドウ病

その2 橋本病

この2つはともに自己免疫で起こる病気です。

1. 自己免疫疾患って何?

免疫というのは、はしかに一度かかったら二度かからないというように、体を守るためにあります。そしてこの体を守るための免疫反応が体にとって悪い方向に働く状態をアレルギーといいます。このアレルギー反応は、通常、花粉症のように体の外のものに対して起こりますが、その反応が自分の体に対して起きる場合があります。そういう場合を自己免疫疾患といいます。バセドウ病や橋本病は自分の甲状腺にアレルギー反応を起こしてできた病気です。

2. バセドウ病も橋本病も同じ自己免疫疾患だったら、どこが違うの?

甲状腺に対してアレルギー反応を起こした結果、甲状腺に痛みや熱を伴わずに慢性の炎症を起こすのが橋本病です。一方、アレルギー反応の結果、甲状腺を刺激する抗体ができて、そのために甲状腺ホルモンの分泌が過剰になる病気がバセドウ病です。

4 代表的な甲状腺の病気について

その1 バセドウ病

1. バセドウ病の症状は?

甲状腺ホルモンが過剰になるため次のような症状がでてきます。疲れやすい、動悸がする、汗が多い、手が震える、よく食べるのにやせる、暑さに弱いなどです。また、筋力の低下（特に足の付け根）、手足の麻痺なども時にみられます。

2. バセドウ病の治療は?

バセドウ病の治療としては、薬、手術、放射線の3つがありますが、残念ながら、自己免疫反応そのものを治す方法はまだ見つかっていません。どの治療にも一長一短がありますが、普通は薬から始めます。

1）薬

メルカゾールあるいはプロパジール（またはチウラジール）という薬を使います。1日6錠から飲み始め、甲状腺機能が正常になれば徐々に減らし、最終的には1日1錠ほどになります。しかし、規則正しく5年間薬を服用しても治る方は半分程度といわれています。副作用は、白血球減少（1,000人に1～3人の割合）が最も重篤で、服用開始後2週間～6ヶ月以内におこるとされますが、その予測はできません。当初は2週間に1回程の血液検査が必要です。また、皮膚のかゆみ（4～5%）、肝臓の機能障害（3%）などもあります。

2）手　術

副作用のため薬が飲めない人、将来の妊娠・出産のため薬を飲みたくない人（まれに薬で奇形がおこります）、甲状腺が大きい人、早く治したい人などが対象です。手術は甲状腺のほぼす

べてをとり、一部を残します。問題としては術後の再発、機能低下、声のかすれ、副甲状腺の機能低下（血液中のカルシウムが低下）、傷跡などがあります。

3）放射線

子供、妊娠・出産を希望する人、授乳中の人は通常行っていません。ある程度の高齢者に適した方法です。大量の放射性ヨードを1回飲むだけですが、その結果、ヨードは甲状腺を集中被爆し、甲状腺機能を低下させます。内服後1～2ヶ月で甲状腺ホルモンは減少し、6ヶ月ぐらいで甲状腺機能はほぼ正常になります。しかし、放射線の効果は長く続き、最終的には甲状腺機能低下となります。

その2　橋本病

1. 橋本病の症状は?

橋本病では慢性炎症の結果、甲状腺の働きが低下してくることがあり、成人の甲状腺機能低下症の主な原因となっています。甲状腺ホルモンが不足したときの主な症状は、皮膚がかさかさする、顔や手がむくむ、寒がり、便秘、あまり食べないのに太る、髪の毛が抜ける、生理が多い、心不全をおこすなどであり、老化が早くなってきます。

2. 甲状腺機能低下症の治療は?

甲状腺機能低下になると甲状腺ホルモンを投与して治療します。薬には乾燥甲状腺末、チラージンSなどがありますが、現在はチラージンSがよく用いられています。甲状腺機能低下症と診断された場合は薬の量、甲状腺のホルモン検査などを定期的にチェックしていきましょう。また、橋本病の経過中にときとして悪性リンパ腫を合併することがあります。超音波検査を定期的に受けることも重要です。

しこり（腫瘍）が出来て、それが悪性かどうか問題になる病気

甲状腺内に腫瘍ができる病気です。良性と悪性があり、以下のように分類されます。

良　性：濾胞腺腫（ろほうせんしゅ）・腺腫様甲状腺腫（せんしゅようこうじょうせんしゅ）・嚢胞（嚢胞）
悪　性：乳頭癌（にゅうとうがん）、濾胞癌（ろほうがん）、髄様癌（ずいようがん）、未分化癌、悪性リンパ腫

これらの腫瘍は、甲状腺の機能にほとんど異常がないため自覚症状はなく、知らない間に大きくなります。自覚症状がないために放っておく患者さんがいますが、悪性腫瘍の場合もあります。きちんと甲状腺専門医にかかり検査を受ける事をお勧めします。

その他の病気

単純性びまん性甲状腺腫

甲状腺がもとある格好のまま全体に大きくなっているのですが、その働きは正常で、自己免疫反応のみられないものを言います。原因不明のことが多いのですが、思春期や妊娠中に見られることもあります。経過観察だけで治療の必要はありません。しかし、最近、検査の感度が上がりこれまで単純性甲状腺腫といわれていたものの中に軽症の橋本病や腺腫様甲状腺腫が含まれていることが分かってきています。

亜急性甲状腺炎

ウイルス感染が原因ではないかと考えられている甲状腺の炎症性の病気です。数ヶ月で治ってしまうので亜急性（急性と慢性の中間）と呼ばれています。甲状腺は硬く腫れ、強い痛みを伴います。また、全身性に発熱をきたします。そして甲状腺に強い炎症を起こすために甲状腺が破壊され、甲状腺ホルモンが漏れ出します。その結果、血液中の甲状腺ホルモンが上昇し、甲状腺機能亢進症が起こります。初期にはその症状が似ているために、風邪やがんと間違われたり、バセドウ病と間違われたりすることがあります。副腎皮質ステロイドや消炎鎮痛剤などで完全に治る病気です。

おわりに

このノートはあなたとやまかわクリニックが作り、あなた自身が管理する甲状腺の健康カルテです。

縁の下の力持ちともいえる甲状腺をやさしくいたわり、日々の健康を保たれることをお祈りします。

2013年4月1日

医療法人　乳和会＜乳腺・甲状腺＞
やまかわ乳腺クリニック
山川　卓　編

病気の概念、治療法は時代の流れにより変化する場合があることをご了承下さい。